

当たり前でないことに気がつく

菅原 聡子

私は毎週、通院していますが、一昨日、待ち時間に知らない女性から声をかけられました。少し前に、医師からSさんと呼ばれていた方でした。宗教の勧誘かなと思う話の内容でしたが、2メートル程離れていたのに、Sさんの隣りまで移動しました。

「私は、免疫システムの病気です」と伝えたとSさんは、「ポジティブであれば、免疫力は高まり、病気は治る」というお話を始められたのでした。

『何だかあなたはネガティブだから病気なんですよと言われているみたいだぞ』と思いながら、ニコニコ聞いておりました。

『では、ポジティブなSさんは、どうして今日受診されたのか?』という疑問も沸き起こりました。



下手な勧誘だな～と思い、『次にお会いすることがありましたら、その時は、少しでも上手な勧誘が出来るようお勉強してくださいね』と言いたかったのですが『自分の行動には、全ての時に責任がある』と思いだし、火花が散るような発言は控えることができました。

やっぱり病院へは、本を持って行こう。本を読んでいたら見ず知らずの方から、あなたはネガティブだから病気が治らないだなんて言われることは無かったかもしれないと思いました。

初対面のSさんに話かけられたことにより、ようやく気づくことができました。毎週通院するようになってから六年経ちますが、その間、病院のスタッフの方々には、とても優しく接して頂き、イヤなことなんて無かったと気づいたのです。

毎週通っていると、他の患者さんが私の名前を覚えて下さり、知らない方から、名前を呼んで頂いたり、親切にさせていただくことが沢山ありました。感謝することばかりの六年間でした。その六年間を当たり前のように過ごし、初対面の患者さんから『あなたはネガティブだから病気が治らない』と言われて「あ、私は皆さんにとっても良くしていただいていたのだわ」と普段の有り難い環境にようやく気づくことができたのでした。気づくきっかけを与えてくれたSさんの話しかけに「ありがとうございます」です。(岩手県)

 [目次へ戻る](#)